「市民と街が主人公」笑顔あふれる島原へ向けて

島原市長 古川 隆三郎

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は、令和6年12月に市民皆様のご信任をいただき、島原市長として4期目の市政運営を担わせていただくこととなり、早いもので1年余りが過ぎました。この間、笑顔あふれる島原を目指し、企業誘致をはじめ様々な施策の実現に向け取り組んでまいりました。

新たに迎える令和8年も、今後50年先、100年先の島原市の発展につながるよう、市政運営に全力で取り組んでまいります。

私が4期目に入り一番に取り組んできた企業誘致は、昨年、データ処理やシステム開発を手がける㈱ディーソルHPPの誘致が実現しました。今後5年間で100人規模の雇用が見込まれております。若い人が島原に留まる、一旦都会へ出たけど帰ってきたい、そんな思いに応えるため、今後も第2弾、第3弾の企業誘致を目指し、工業用水に適した豊富な湧水や諫早、島原、熊本を最短90分でつなぐシリコンシーラインの活用など、島原特有の有利な要素をアピールしながら、あらゆる方向から誘致に取り組んでまいります。

昨年3月、島原城跡が国指定の史跡となりました。これを記念して「超絶 島原城」と銘打ったシンポジウムを開催し、島原城跡の歴史的価値を広く発信いたしました。今後も国の支援を受けながら保存と活用を図ってまいります。

高規格道路「島原道路」については、目に見える形で着々と工事が進捗しております。引き続き国や県と連携し早期整備に努めるとともに、完成後の未来を見据えながら島原道路の利便性・価値をさらに高めるため、有明海沿岸道路の整備促進や島原道路のさらなる延伸について、関係機関へ働きかけてまいります。

また、消防団員を含む44名の尊い生命を奪った雲仙・普賢岳噴火災害の影響から、山頂には巨大な溶岩ドームが堆積しており、現在でも崩落や土石流の危険にさらされています。

溶岩ドームの監視と砂防施設の管理について、雲仙砂防管理センターによる国直轄の管理体制のもと、連携を図りながら対策を講じてまいりますとともに、広大な砂防施設をロケの誘致やドローンによる貨物輸送実験などで活用できないか検討してまいります。

このほかにも継続して取り組む課題が山積しておりますが、本年もスピード感のある市政運営の舵取り役として精一杯チャレンジするとともに、笑顔あふれる島原の未来を見据えながら、「市民と街が主人公」を合言葉に取り組んでまいりますので、皆様方の更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様にとりまして、本年が素晴らしい年となりますよう心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

さらなる発展を目指し定住人口の増加を図る

諫早市長 大久保 潔重

新年あけましておめでとうございます。新春を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年、私は諫早市長として2期目を迎え、諫早に暮らす皆様の「夢が叶う」年となるよう、さまざまな施策に取り組んでまいりました。

1期目には、諫早の未来を担う子どもたちの健やかな成長のため「子育て3本の矢」を掲げ、小中学生福祉医療費の現物給付化、同時在園第2子の保育料無償化、市立小中学校の学校給食費無償化を実現しました。これらの施策は皆様から大きな支持をいただき、地域に根差した子育て支援の礎を築くことができたと確信しています。

本年はさらに、乳幼児期の健やかな発達を学べる場所などをすくすく広場に整備し、子育て支援施設の拠点となるよう取り組んでまいります。

また、小長井地域では本市初の義務教育学校の開校に向けた準備を進め、地域の教育環境をさらに充実させていきます。

また、昨年は諫早市にとっても大きな節目の年となりました。市制施行20周年を迎え、諫早文化会館で記念式典を開催しました。

市勢発展に尽力された方々に感謝の意を表し、表彰を行うとともに、本市出身の著名人をお招きしたトークセッションも開催、諫早市の未来への希望と展望を感じることができました。

今後は、さらなる発展を目指し、「諫早市の新しい都市計画」を実現させ、定住人口の増加を図ります。

そして、本年はスポーツのまち諫早を象徴する一大イベント「長崎ミュージックフェスマラソン」がいよいよ本格的に始動します。これはマラソンと音楽を融合した新しいイベントで、県内初の日本陸上競技連盟公認のフルマラソン大会です。令和9年1月の開催に向けて、関係各所一丸となって準備を進めています。皆様にはぜひご期待いただき、この新たな挑戦を一緒に盛り上げていただければと思います。

本年も、諫早市がますます輝き、皆様にとって幸多き年となりますようお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。